

## 第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 総評 プロフェッショナル部門 - 2 次審査

### ●審査員 A

- ・以前に増して、コンテスタントの参加に対する意欲があると思います。
- ・これから更に、方法、又ステージへの向かい方、工夫が出来るかと思います。楽しみです。
- ・ホールのひびきを感じる事が出来ると良いと思います。又参加者の方が次をたのしみに参加してほしいです。

### ●審査員 B

まず何よりも、ショパンの指導と演奏において、シンプルさがもっとも重要だということを忘れないようにしましょう。ルバートを乱用しないようにしてください。特に古典派と深いかわりのあるソナタ形式ではこれは重要です。テーマ、和声（長調、短調、減和音、転調、そしてそれらの関連性）、クライマックスや終止形など、曲の構成をよく分析してください。フレーズの中で、どれがより重要か、どれがそれほど重要でないか、自分で決めなければなりません。もし全てのフレーズを同じ重要さで演奏してしまうと、構成が分かりづらくなります。モーツァルトのようにクリアなハーモニーになるよう、ペダルの使い過ぎにも気をつけましょう。ユリホールほど大きいホールの場合、教室で演奏するときよりももっとペダルの量を減らさなければなりません。そして、ソプラノの声部をもっとはっきり響かせ、左手の対照的で興味深い旋律もアーティキュレーションに気をつけて弾きましょう。また、休符も音楽の重要な一部です。大きいコンサートホールでは、反響によって休符が聴こえづらくなるので、より気を配りましょう。各声部のバランスもよく考えましょう。強弱、アーティキュレーション、音色、バランスなどにおいてコントラストをつけることは、解釈する上でとても重要です。これらの要素を正しく、そして曲の性質に応じて用いてください。単調な演奏は、抑揚なしに話すようなものです。ピアノであってもフォルテであっても、朗々とした豊かで上品な響きは、ショパンの美学において重要な要素です。また、声楽的なフレージングも、ショパンの語り口に非常に特徴的といえるでしょう。

### ●審査員 C

権威あるプロフェッショナル部門の最終審査での演奏、お疲れ様でした。ショパンのソナタを演奏するには、様々なことが求められます。これらの傑作に取り組む際、技術的な面や音色の美しさだけでなく、是非もっと古典的な側面や構成にも注意を払い、普遍的な音楽記号を読み込んでください。モチーフやハーモニーにも意味があり、特にソナタ第 3 番ではポリフォニーも常にはっきりと聴こえてこななければなりません。

### ●審査員 D

本日の演奏者による解釈は、技術的、芸術的レベルが異なっていました。第 1 楽章のソナタ形式に十分な注意を払わないがために、主要な部分の強弱のコントラストが貧弱すぎた演奏が多かったことが気になりました。その結果、構造が不明瞭になってしまい、音符や細部ばかりが聴こえてきた印象です。また、テンポが速すぎて機械的に聴こえた演奏も多く（特に第 1、4 楽章）、主旋律の表現が足りないように思いました。みなさんには、もっとロマン派のスタイルについての知識と理解を深め、作品の音楽的な側面により焦点を当てて頂きたいと思います。

### ●審査員 E

今回はコロナ禍からの規制が緩和され、ポーランドからの審査員をお迎え出来、本来のコンクールの姿に戻れたことが嬉しく思いました。そして海外からの参加者もあり、個性的な演奏もあって面白く聞けました。しかしソナタは 2 曲共にショパンの作品の中でも特に難しく、楽譜を細部に渡って深く読み取って表現して頂きたいと思いました。またホールの響きをよく聞いてコントロールをすることも大切で、音色に対する意識を更に充実することが望まれます。二日後のコンチェルトでは実力を発揮してほしいと思います。

## ●審査員 F

・皆さんよく練習して指がよくうごくのですが、その品質が悪いです。重さをのせてしんをもってフルコンの弦をきちんとならしたいですね。上すべりせずに鍵盤を深くとらえた上で音をあてるのではなく、音の魂を奏でるのです。ただ速くレースのように弾いても無意味なことです。

・バランスに気を配って下さい。左右バランスはもちろん和音のバランスも。Sop が大切だけど他は適当でいいということはありません。パートごとにちがうタッチを使うことで全体のバランスを整えていきます。遅筋をきたえてコントロールの効く指をつくりましょう。

・p, f, >, < などいつも同じように作るのではなく、今どのセクションにいてどのような音楽を必要とされるかよく理解してください。それによって表現まで変わってきます。設計、構成ありきです。

・左の扱い、特に Bass とその進行&ハーモニーはショパンならではの世界です。右のメロディだけで音楽をつくらぬこと。豊かな和声を感じて表現につなげていかななくてははいけません。

## ●審査員 G

今回の課題曲はショパンのソナタでした。言うまでも無くショパンの作品中最大の規模をもつこれらの傑作は技術的にも音楽的にも最高の難度をピアニストに要求されます。また2番と3番の持つテンペラメントの違いが著しく異なるのも特長です。

2番では参加者の多くが1楽章はかなり仕上げていましたが、2楽章の荒々しいスケルツォが音楽的にも音色的にも雑になってしまい、トリオの対話も十分に楽しめていなかったのが残念でした。また謎の多いフィナーレでは確かにレガートが基本なのですが、会場の響きに対応してどの程度のペダルの浅さにするのか考える余裕（自分の音を聞く余裕）が無く、結果的に非常に不鮮明なユニゾンに終始していた方が多く残念でした。

3番では1楽章のマエストーゾが荒すぎたり逆に軽すぎたりで、壮大な開始を告げる第1テーマとして問題が多かったように思います。展開部は対位法的なやり取りが不十分なケースが多かったです。1番残念だったのは2楽章が技術的にも音楽的にも極めて不安定だった点です。そして3楽章はノアンでの平和な日々を思わせるような繊細で滋味に溢れる表現が必要でしたが少々雑な印象でした。フィナーレは色々有りましたが総じて若さ溢れる熱演が多く聴き応えがありました。

## ●審査員 H

全体に音楽の流れとアイデアは良いけれど音を叩く、バランスが悪い、自分の音をよく聴いていない人が多かったように思います。YouTube の聴き覚えのような演奏で音の出し方の技術が伴っていないので、メロディの歌い方は美しいが、cresc. が早すぎる、左手を弾いていない・・・etc. 美しい音の出し方の基礎をもっと学ぶ必要があると思いました。